

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174500882
法人名	有限会社河貝子
事業所名	グループホームうぐいす
所在地	〒369-1202 埼玉県大里郡寄居町大字桜沢3574番地1 (電話) 048-581-8322

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年6月11日

【情報提供票より】(平成19年12月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (450,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり1,400円				

### (4) 利用者の概要(12月14日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2		2 名	
要介護3	1 名	要介護4		3 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 81.9 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小久保医院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、利用者が里山の自然環境において、人間としてその人らしく輝やかに生活できるグループホームを目指して取り組んでいる。菖蒲園のあるホームの周りでは、果樹や野菜が作られており、虫が舞う里山を目指してカワニナやタニシが育てられている。建物は、広いベランダやガラス戸から、周囲に広がる自然を一望できる作りとなっている。また、命の源である食事を楽しめるよう、産地直送便や自家栽培の野菜や山菜を使って、季節感のある手作り料理を利用者と共に作っている。利用者と職員は、馴染みの関係を基盤にして、利用者の持てる能力や役割が発揮されている。また、認知症による混乱や不安を最小限とし、安心して快適な日々が過ごせるよう、協力しあい、支えあう関係を築いている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「理念」の共有と、理念を日々の介護に活かすために、玄関や居間に理念を掲示している。また、不足していた感染症マニュアルや救急法マニュアルの作成に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、職員会議での話し合いや、休憩室等で目を通し、意見交換している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>認知症サポート懇談会や花菖蒲の集いにおいて、地域の老人会や民生委員、地域包括支援センター担当者、家族が参加し、ホームの概況や認知症の理解や支援について話し合いをしながら、風通しの良いホームの運営を目指している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年2回、家族交流会を実施し、利用者と家族、家族同士のおしゃべりの中から、意見や不安を把握し、利用者や家族を中心とした運営を、常に考えている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>夏祭り等、地域のイベントに協賛し、利用者は地域の人々と交流する機会を大切にしている。また、老人会の人々がホームを訪れたり、花菖蒲祭りには地域の方々が参加したり、野菜作りについての情報交換をする等、地域との連携を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症を持つお年寄りが自分らしく輝き、里山の自然と人々の触れ合いを介護に活かし、職員と利用者が心を通わせ、協力し合って生活することを理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や食堂に理念を掲示している。職員は理念の実践に向けて毎月の職員会議等で検討し、日常の介護に活かす取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り等地域のイベントに協賛し、利用者は地域の人々や子供達と交流する機会を持っている。また、日常的には散歩や買い物に出かけ、近所の方からは野菜の差し入れをいただいたり野菜作りの情報交換を行う等している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員の意見を求めながら作成している。前回の外部評価を受けて、評価で見出された課題については、不足しているマニュアルを作成し改善に取り組んでいる。また、評価結果は、家族へも送付している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	名称にこだわらず、地域包括支援センター、民生委員、老人会、家族等が参加し、認知症サポート懇談会や花菖蒲の集いを開催し、意見交換をしながらサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者、地域包括支援センター担当者や社会福祉協議会の人との意見交換をする機会を持ちながら、サービス向上に取り組んでいる。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的にうぐいす便りを発行し、行事や利用者の生活状況を報告している。医療対応時や何か大きな変化があった場合には、個々に連絡をとっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会を年2回開催し、利用者と共に散歩や山菜採り、おしゃべり等で意見を出してもらう機会を持ち、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意見や提案を、施設整備や待遇改善に活かし、離職を最小限に抑える努力をしている。職員の異動時には、柔軟な対応をしながら利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、グループホーム協議会、社会福祉協議会、日赤等の研修を活用し、希望者を派遣している。内部では毎月の職員会議時に、救急蘇生法や排泄失禁の介護等について学習を進めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて施設見学や実習を行うように努め、交流の機会を持つように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の生活状況や気持ちを尊重し、家族の希望や意見を汲みながら、徐々に馴染めるよう、工夫しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が主役という考えのもとに、職員は生活を支え楽しむという立場で介護に当たり、利用者によって成長し、支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は常に変化しているため、職員は個々の思いや希望を把握するために、毎月の職員会議や引継ぎ時に話し合いをし、利用者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議での意見交換をもとに、ケアのあり方について意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成している。原案を家族に提示し意見を聞いた上で、作成した介護計画を家族に渡している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化によって、定期的に職員会議で検討し見直しを行い、また、状態に変化が生じた場合には、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性はないが、デイサービスの計画を考えている。肺炎を併発し、入院受け入れが不可の人の場合に、通院治療で回復を図る等、個別の支援も柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療医院や救急病院と連携し、本人や家族の希望を踏まえ、個々に必要な医療支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族交流会等で家族の意向を聞きながら、重度化した場合の方針をつくり、主治医や看護師と連携しながら、ターミナルケアについて職員間で方針を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護については、就業規則にうたっており、取り扱いに注意している。コミュニケーションにおいては、言葉遣いに配慮し、個人の尊厳を守った対応のあり方等について常に検討している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物、掃除、洗濯、畑作業等、個人の出来ること、やってみたいこと等を中心に、ホームでの日々の生活を組み立て、利用者の希望にそえるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は条件や利用者の希望によって、準備や片付けを職員と一緒にしている。3食とも手作りで、畑から採れた旬の食材を使って、食事を楽しめる支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望を大切にしながら、楽しく入浴できるよう配慮している。また、よもぎ風呂、菖蒲風呂、ゆず風呂等、季節感を楽しめる工夫も取り入れて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、野菜作り、園芸、外食、映画鑑賞等、個人の希望と条件に応じた役割、楽しみごとへの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は日常的に買い物や散歩などに出かけている。また、ベランダが広く、小鳥のさえずりを聞きながら、森林浴や日向ぼっこができる環境にある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵を掛けずに、利用者は自由に入出入りできる。夜間は普通の家と同様に、戸締りをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、消防署の協力のもと、防災訓練を実施している。また、消火器を使つての消火訓練や避難の方法を体験している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた献立になっており、食事摂取量は、主食・副食別にチェックしている。散歩後や入浴後等は、牛乳やジュース、好みの物が飲めるよう支援し、脱水には特に注意をして対応している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からは、里山の木々や菖蒲畑が広いガラス戸を通して見渡せ、3か所のベランダには、時間や季節に合わせて思い思いの場所で過ごすことが出来るスペースがある。玄関、廊下、トイレ等には花や写真が飾られており、親しみやすく快適な空間となるよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの家具を持ち込まれ、個人の好みに応じたレイアウトがされている。必要に応じ、エアコンや加湿器、換気扇など取り入れて居心地良く過ごせるよう工夫している。		